

伊豆の豊かな海を守る海藻移植研究

(予算区分 [研究費] 研究期間 2023~2025 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 伊豆分場 角田充弘

【研究の背景とねらい】

- 伊豆半島沿岸では7年間継続した黒潮大蛇行の影響で磯焼けが深刻化しており、カジメ群落の急速な衰退により天然のアワビが餌不足に陥り、漁獲量が激減しています。
- 本研究では、海藻着生状況調査により磯焼け状況を把握するとともに、アワビの餌として有用かつ現環境下でも生育可能な海藻の選択と、その海藻の移植技術を開発します。

【研究成果】

- 伊豆半島沿岸12地区で潜水又は聞き取りにより海藻の着生状況を調査したところ、全地区で磯焼けが継続しており藻場の衰退が認められました。
- 移植候補海藻の環境耐性試験において、稲取漁港内の観察から、アントクメは高水温環境下(水温27℃)でも枯死せず生育できることを確認しました。
- 藻食性魚類における摂食試験において、藻食性魚類のブダイに海藻4種を同時に与え、摂食量を比較した結果、アントクメはカジメに比べてブダイに摂食されにくいことが分かりました(図1、2)。
- メガイアワビ、クロアワビによる摂餌試験において、餌料海藻による稚貝の成長の違いを比較した結果、両種ともアントクメを与えた個体の成長が最も良好であり、アントクメはアワビの餌料として有効であることが分かりました。
- 以上の試験結果から、高水温環境下でも生育し、カジメよりも食害に遭いにくく、アワビの餌料海藻として有効なアントクメを移植海藻に選択しました。
- 採集したアントクメを室内で遊走子を放出させて種苗を生産する人工生産と、アントクメの藻場に遊走子の付着基質を設置して採苗する天然採苗の両手法を確立しました。
- 移植したアントクメ母藻を防除ネットにより食害から保護した結果、周辺に幼体の着生が確認されたことから、食害防除策を講じることで母藻移植によるアントクメの拡大が可能であることが明らかになりました。

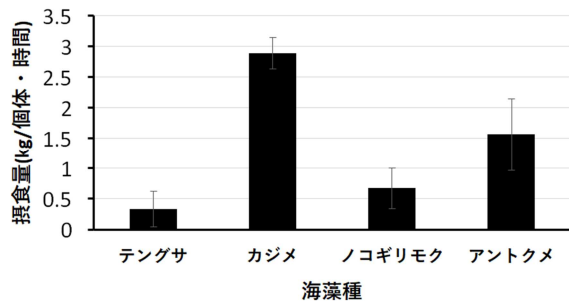


図1 ブダイの海藻摂食量



図2 海藻摂食の様子
(左) アントクメ、(右) カジメ

【研究成果の普及方法】

- 本研究の結果を踏まえ、令和7年度から始まった伊豆の磯焼け緊急対策事業において、委託によるアントクメの移植を実施して藻場の造成を図るとともに、アワビ資源の回復に努めます。

(作成 2026年3月)